

『中日大辞典』発刊50周年記念講演会および 『中日大辞典』第三版贈呈式が開催されました。

2018年(平成30年)11月21日、愛知大学名古屋キャンパスの本館20階会議室において『中日大辞典』発刊50周年記念講演会「中日大辞典 愛知大学の資産から人類の財産へ」を開催しました。約120名の方々が聴講され、朝日新聞も取材に訪れるなど盛会でした。

講演に先立ち行われた『中日大辞典』第三版贈呈式では、愛知大学川井伸一学長より、ご自身も中国語を学習する際に『中日大辞典』を使用していたというエピソードを交え、『中日大辞典』は愛知大学の長い歴史の中で、中国との文化交流のシンボルのような存在であり、準備期間の30数年を含めると約80年の歴史を持つこの『中日大辞典』が、日中友好の架け橋、学术交流の船となり、発刊50周年の年に中国教育国際交流協会へ1000冊寄贈されることで、中国の100万人近いといわれている日本語学習者の皆さんのお役に立てば光栄に存じます、とのご挨拶をいただきました。



次に、来賓の中華人民共和国駐名古屋総領事館の鄧偉総領事よりご祝辞をいただきました。その中で、総領事ご自身の日本語学習と『中日大辞典』の関係について触れ、数冊しかない『中日大辞典』を借りるために他の人よりも早く図書館へ行き勉強されたというエピソードを紹介していただきました。また、今年



中日平和友好条約締結40周年という節目の年であり、中日関係のさらなる改善と発展が期待される中、愛知大学より中国教育国際交流協会へ『中日大辞典』1000冊が贈呈されることとなり、誠に喜ばしいことであると、中国教育国際交流協会に代わって謝意を示されました。

贈呈式では川井学長より、鄧偉総領事に『中日大辞典』1000冊の目録が手渡され、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。



贈呈に引き続き、『中日大辞典』発刊50周年記念講演会を開催いたしました。

講演会ではまず、中日大辞典編纂所の元所長で、『中日大辞典』第三版の編集主幹であり、初版からずっと編纂作業に携われた今泉潤太郎名誉教授から、『中日大辞典』のこれまでの歩みを詳しくお話ししていただきました。次に、県立広島女子大学の名誉教授で、『中日大辞典』第三版の編纂にご尽力いただいた顧明耀先生に、「中国人の目を見た『中日大辞典』」というテーマでご講演いただきました。最後に、『中日大辞典』のデータベース化という大事業を数年にわたり推進されてこられた中日大辞典編纂所研究員の齊藤正高先生から、2019年度公開予定のデータベースについての基本的なご説明がありました。詳細については、以下の講演記録をご覧ください。

